



懸け橋担う亀渕通訳



久原 大輝

ロサノ監督とラッセル、江西選手は日本での生活が初めてとなる。ロサノ監督はゴルフ、ラッセル選手は奥さまと散策、江西選手は自転車でショッピングと楽しんでくれている。そんな3人を常にサポートするのが亀渕雅史通訳だ。

亀渕通訳は在籍10年目で愛称は「亀さん」。スタッフでは平馬慶

太コーチに次ぐ古参だ。練習時は監督の指示をチームに分かりやすく伝え、日本人選手と3人の懸け橋的な役割を担っている。

本来であれば、通訳を介さずに会話できるのがベストだが、たまにあえて訳さない場面もある。私なりの解釈だが、「直接、彼らと会話ができるのもっと成長できるように、良い学びになるよ」という、に感じる時がある。

仕事のやりがいを知ると「いろんな国籍の人と接するから、文化や背景を知ることができ、自分自身が成長することができると」と熱く語ってくれた。趣味は体を動かすことで、体も心もまだまだ若い亀渕通訳にぜひ注目していただきたい。



三点倒立する亀渕通訳

(J-T広島マネジャー)